

2015 年 11 月 1 日 「宇宙の根本を探して」 真のお母様

本日は野外礼拝でした。以下に訓読した真のお母様のみ言を掲載いたします。

<2015 秋季清平特別大役事での真のお母様の御言>

「宇宙の根本を探して」

「お会いできて嬉しいです。皆さんここにどのような思いで来ましたか。父母様にお会いできると心躍らせる思いでやってきましたか。（「はい！」拍手）先ほど、映像で見た「うどんげの花」、この奇跡の花が本郷苑の横にある菜園のプチトマトの上に、10 月 4 日に咲いたのを発見したのです。それで今もまだ生き生きと咲きつづけています。皆さんに、そして人類に、愛の恩恵を与えようとされる天の父母様の愛がどれほど大きいかを感じませんか。

今日の私の話に題名をつけるとすれば、「宇宙の根本を探して」、本郷で真の父母と共に暮らしたいです。どうですか。（拍手）外的な世の中で起きている出来事からは、希望を見出すことはできません。今この瞬間、世界各地で飢餓や天災地変、宗教紛争、思想戦をもって多くの命が失われています。それを考えると、皆さん一人ひとり、一家庭、一家庭が大切なのです。この祝福を皆さんだけで留めてはいけません。天地を創造された神様の創造の目的があったのです。願いがあったのです。しかし、人間(始祖)が責任を果たすことができなかったためにどうになりましたか。今日のようなサタン主管圏の世界になりました。神様が主管される世界は苦痛、悲しみ、そのようなものは見つけることができません。幸福でなければならないのです。しかし、今日の世界はそうになっていません。聖書で言う、6000 年の蕩滅復帰摂理歴史は、失った人間を取り戻すための切なく苦しい天の父母様の悲しみの摂理歴史だったのです。

本来、人間は責任を果たすようになっています。神様が願われるままに成長をするようになれば、神様と同じ位置で人類の真の父母にならなければならなかったのです。しかし、神様から離れた人間はサタン圏で彷徨うしかないので。それでも天は創造なされた目的があったために、人間を見捨てることはできなかったのです。それで、人間を取り戻すための蕩滅復帰歴史を始められたのです。それが現在の私たちが知っている多くの宗教(の歴史)なのです。悪の世界において善を追及し真となるように生きることを願われる天は、その地域ごとに、ふさわしい宗教を立ててくださいました。それでも人間は創造主である神様が計画された摂理歴史の囲いの中に入ってこなければなりません。

それはどういう意味かと言えば、キリスト教だけが神様と人間の関係を父子(親子)の関係と言いました。神様を父と呼びました。親と子、血統が一つでなければならないのに、墮落したということは血統が間違ったということです。それで、天の側に来るためには蕩滅を払わなければなりません。それが、困難の中で 4000 年という期間をとおし、一つの家庭から出発して選民として育てられてきたのがイスラエル民族でした。イスラエル民族が 4000 年という、とても長い歳月をとおして出てくるまでの天のご苦労は、言葉で表現できません。

ですからイスラエル民族が国の形態を備えることができるときに合わせて、神様は「メシヤを送る」と言われました。このようにしてメシヤは来られました。神様は(メシヤのことを)「独り子」と言われました。「この墮落した世の中に人間たちは多いが、私に対することのできる唯一の息子だ。独り子だ。」と。

そうであれば、墮落した人類はこの独り子に侍らなければならないのに、どうなりましたか。準備されたイスラエル民族、ユダヤ教、イエスの周りにいた人々、マリヤまで責任を果たしましたか。果たせませんでしたか。(果たせなかったので、)イエスは十字架に架かるしかありませんでした。亡くなられる時に、何と言われましたか。「再び来る。」と言われました。再び来られて何をされると言われましたか。「小羊の宴をする」と言われました。結婚するということです。神様の願いであり、人類の願いは人類の真の父母を迎えるということです。そうしてこそサタン圏に落ちた人間が、天の側に重生し、再び復活できるのです。しかし、その機会を逃してしまいました。

私たちは歴史をとおり、イスラエル民族がどんな迫害にあったか知っています。当時、ローマ帝国は世界に通じると言われるほどの強大な国でした。イスラエル民族はローマ帝国下にいました。彼らがイエス様に侍り一つになっていたとしたら、ローマ帝国を吸収して世界に出て行っていたことでしょう。そうなれば、そのときに善主権の神様を中心とした善の版図は成されていたでしょう。しかし、その機会を逃してしまいました。それでも全知全能なる神様は、ただ待つことはできません。それで、キリスト教 2000 年の歴史は聖霊の降臨、聖霊の役事によって導かれてきた歴史でした。それはどういう意味かと言うと、独り娘を探し出すための基盤であったということを知らなければなりません。わかりますか。(拍手)

今日のキリスト教徒たちはわかっていません。天の摂理歴史がこのように科学的に、本当に明確に進められてきているのに、これをわかっていません。それで、少しここでイエス様以降、人類の文明史をとおり、この韓半島がどのような責任を果たさなければならないかを説明しようと思います。人類の文明史は大きく見れば、半島文明を通して大陸に、島国に、そして再び半島に戻って来るようになります。ですから、キリスト教文化の出発はイタリア半島から始まりましたね。その後、そしてヨーロッパ大陸を経てイギリスに行くようになりました。それで、イギリスは何と呼ばれましたか。イギリスは「世界の日が沈まない国」であると豪語しました。また、17 世紀初頭、キング・ジェームスが聖書を英語に翻訳させることによって、一般信徒たちが聖書を手に取ることができるようになりました。

当時、キリスト教はとても腐敗してしまっていた。制度のもとに、天も人も縛り付けていました。その時、心から天に侍ろうとする清教徒運動が興るようになりました。それで、(彼らは)自由に神様に侍ることができる信仰の自由を求めて大陸に移動しました。それがピルグリム・ファーザーズです。清教徒がアメリカ大陸に行き、アメリカはキリスト教民主主義の国家として世界をリードする位置に立ったのです。それは天が再臨のメシヤのために基盤を整えられたのです。イエス・キリストのその当時のように無知な人間たちによって天を悲しませた、そのような歴史となってはならないので、民主世界を築いておかれたのです。

信仰の自由、それは再臨のメシヤを迎えるための基盤であったのです。

その一方で、天は先ほど私が話したように、キリスト教基盤は独り娘を探し出す道だったと言ったのです。なぜこの国が韓半島、韓国という名前を持つようになったか。この国の歴史を見てみると、高句麗のとても栄えていた歴史を持っています。それゆえにその次に建国された高麗は「高句麗」から引用して「高麗」と言いました。李氏朝鮮は「古朝鮮」から引用して「朝鮮」と言いましたね。韓国の歴史においてとても栄えた、そのような文明のときがあったということなのです。そうですね？ 皆さんは、本当に勉強しなければいけないことがたくさんあります。しかし、残念ながら韓国の歴史は中国と日本にひどく、何というか、歪曲されました。そして、消されてしまいました。

しかし、天の摂理として、独り娘を探し求める摂理があったというのです。4000年間イスラエル民族をとおり独り子を誕生させた天が、独り娘を準備されなかったはずがないでしょう？ イエス様が亡くなられる前の紀元前 400 年から 800 年の間に、東夷民族という人々がいました。東夷民族を知っていますか。東夷民族は、中国とは少し違います。東夷民族による韓氏王国があったのです。輝かしい王国があったのです。そのことが『詩経』に出てくるのですが、「その王朝が衛満に滅ぼされ海を渡って来た。それが韓半島と日本に広がって下りて来た」という話です。

この話が重要なものではありません。天が最後となる再臨のメシヤ、真の父母の誕生をそのようなひどい国にすることができますか。サタン圏に対して文化民族として堂々と誇ることのできる、そのような民族や国を探し立ててこられるはずでしょう？ そのような点で、結論から話せば、韓半島は再臨のメシヤ、独り娘を誕生させた国であるので、全ての宗教は根本であられる天の父母様を父母として侍る位置にまで進まなければなりません。この世の中に出てきた宗教の中では(そのような立場にあるのは)「世界平和統一家庭連合」、「統一教会」しかないのです。先ほど、人類の文明史について話しましたが、イギリスも責任を果たせませんでした。ですから、再びアメリカ大陸に渡っていったキリスト教文明圏はアジアを訪ねて来なければなりません。アジアを訪ね、日本を経て韓半島、韓国に根を下ろさなければならぬということです。注意深く皆さんに話しますが、私たちの責任がどれほど大きいのかということを知らなければなりません。

この驚くべき天の摂理歴史、6000 年の蕩滅復帰摂理歴史が、真の父母によって完成しました。そうして、真の父母によって新しい時代が開かれました。それが天一国です。わかりますね？ (拍手)ところで真の父母様の在世時に、それほどまでに人類が待ちこがれ、天の父母様が待ち望んでこられた中心が顕現したのですが、この真の父母を知らない 70 億の人類が(いまだに)いるということは、私たちの責任ではありませんか。そうですか、そうではありませんか。1960 年代、世界の人口は 30 億だったと言います。50 年で 70 億になりました。彼らも良心の作用によって、天を探し求め、善良に、誠実に生きていこうと努力してきましたが、環境がそのようになり得ないサタン圏では、整理ができないのです。ただ真の父母をとおしてのみ、一つになれるのです。これが、この民族が 6・25 動乱をとおして体験

したことです。

しかし、この民族も知りません。天の摂理がどのように展開しており、私たちの未来がどうなるか、分からないのです。とても残念なことです。為政者も宗教界の人たちも知りません。唯一、私たちだけが知っています。どのようにしなければなりませんか。皆さんが声を上げ、知らせなければなりません。真の父母様の顕現を世に知らせなければならぬのです。孤独の中で死んでいく悲惨な生命を救わなければいけないでしょう？ 真の父母を知らず生きて霊界に行くようになれば、あの世に行っても難しいのです。子孫に蕩滅を残すことになるのです。ですから、知っている人がどのようにしなければなりませんか。全力投球しないとイケないでしょう？ 皆さんが全員。

本当に興味深いのです。この韓半島は天が選ばざるを得ない国です。今、外的に、政治的に、多くの困難があります。それでもこの民族は、中心を知らなければなりません。

地図を見ると、この清平は、人体で言えば子宮にあたります。本当に興味深くありませんか。子宮は新しい生命を宿すところです。清平は墮落した人類である野生のオリーブの木を、真のオリーブの木に作り変えるところです。そうでしょう？ 違いますか。世界の全ての人たちがこの清平に押し寄せて来なければなりません。そうして新しい命を救わなければなりません。真の父母によってです。ある一個人によってではなく、真の父母によって摂理歴史が成し遂げられるということを知らなければなりません。

私たちの永遠なる本郷はどこですか。「真の父母のおられる場所。そこで真の父母様と一緒に暮らしたいのです」ということが、私たちの願いではありませんか。ですから、天も、お父様も、私たちに、「うどんげの花」のような 3000 年に一度咲くという、その実体、実物を私たちに見せてくださったのではありませんか。

私たちだけが真実を知っていますね。私たちだけが天の摂理を知っているのです。それ故に、私たちが明らかにしなければなりません。知らせなければなりません。どんな方法を使っても、「真の父母を知らなかった」という人がいないようにしなければなりません。そうしてこそ、後になって皆さんが讒訴を受けないのです。「なぜ、おまえは知りながらも私に教えてくれなかったのか。」こんな讒訴を受けてはいけません。

ですから、そのために皆さんは一生懸命、何をしなければなりませんか。氏族メシヤ(の使命)を完成して、国家復帰しなければなりません。この国の主人は、大統領でも、政治家でもありません。誰ですか。真の父母です。神様の祖国、天の父母様に侍る国になってこそ、過去においてイスラエルが経たような途方もない蕩滅を免れられることを知らなければならぬのです。先ほど私が決めた題名について、少し理解できましたか。そのようにしますか。では立ってください。皆さん一緒に「統一の歌」を歌いましょう。(清平 HP より転載)